

■阿部泰蔵 文部省を退官後、日本最初の生命保険会社(明治生命)を設立し、我が国保険業の発展に尽くした。

あべたいぞう

北斎没・・・1849＝ 三河国八名郡下吉田村で、医師豊田鉄剛の四男に生れ、阿部三圭の養子となる。

ペリー来航・1853＝ 4歳：

子供の頃から、漢詩を小野湖山に、津藩の斎藤拙堂の門に入って経学を学び、

五ヶ国条約・1858＝ 9歳：

桜田門外変・1860＝11歳：吉田藩の医師阿部三圭の養子となる。

さらに橋本一斎に蘭学を学んだ後、

禁門の変・・・1864＝15歳：江戸に出て、開成所教授杉田玄瑞に蘭学を学ぶ。

薩長同盟・・・1866＝17歳：穂積晴軒、中島三郎助に蘭学を学び、さらに青地信教の英学の塾に入るが、

大政奉還・・・1867＝18歳：青地の英学塾が閉塾したので、別な英学塾を探して、

明治維新・・・1868＝19歳：慶応義塾に入る。戊辰戦争に際して藩命により帰藩し、各地に転戦。のち再び同塾に入り、

戊辰戦争終・・・1869＝20歳：歴史会誌、窮理書素誌を担当し、童子局の監督を任じられる。

初の日刊新聞1870＝21歳：太政官から辞令を受け、大学南校で英語を教え、一度帰郷して結婚したが、

さらに文部少教授、編輯権助などを歴任するうち、

明治6年政変 1873＝24歳：

佐賀の乱・・・1874＝25歳：妻が死去。翻訳局に入り、

初の民間工場1875＝26歳：一度、文部省を退官、慶応義塾教授となる。

三つの内乱・1876＝27歳：教育制度視察のため、文部省よりアメリカ行きを命じられる。カナダも視察して、

西南戦争・・・1877＝28歳：帰国。侯野景明の娘優子と再婚、

再度文部省に入省するが、

沖縄県編入・1879＝30歳：退官。交詢社の確立に寄与。_莊平五郎・小泉信吉らと共に保険創設について協議し始め、

明治14年政変1881＝32歳：慶応義塾理事委員。慶応義塾内の生命保険創設主任に推され、*日本最初の生命保険会社である明治生命を設立し、頭取に選ばれる。

開業後、地方の有力者に保険加入を薦めるため数十回にわたって日本各地を巡回、明治生命の営業成績を伸ばしただけではなく、日本各地に保険の概念を広める役割も果たす。

内閣発足・・・1885＝36歳：

初の対等条約1888＝39歳：火災保険会を設立して、幹事となり、

帝国憲法発布1889＝40歳：慶応義塾評議員に選ばれ、没するまで在任。

大津事件・・・1891＝42歳：東京倉庫(三菱倉庫)の取締役役に就任。*明治火災保険会社を設立して社長となり、以後、生命保険のみならず、火災保険の普及・発展にも尽力。

郡司千島探検1893＝44歳：伊藤内閣の求めで、法典調査会査定委員に就任。

日清戦争始・1894＝45歳：

東京海上保険会社取締役・交詢社理事を兼ね、

八幡製鉄始・1897＝48歳：東京倉庫取締役会長。第二次松方内閣の法典調査会査定委員にも就任するなど、政界からも信頼される。

田中正造直訴1901＝52歳：福沢諭吉の死去後、

教科書疑獄・1902＝53歳：慶応義塾財務委員にも選ばれる。

日比谷公園・1903＝54歳：

日露戦争終・1905＝56歳：生命保険会社協会評議員会会長に推される。

韓国反日暴動1907＝58歳：慶応義塾法人化により理事に就任。勲五等雙光旭日章_東明火災保険会社を設立して、その取締役となる。

アヲヲ創刊・1908＝59歳：*社団法人生命保険会社協会初代理事会会長に就任、保険業界の重鎮となるに至る。

大逆事件判決1911＝62歳：慶応義塾評議員会会長に就任するなど、生涯にわたって慶応義塾と縁が切れることはなかった。

明治天皇没・1912＝63歳：

21ヶ条要求・1915＝66歳：正六位に叙せられ、

ロシア革命・1917＝68歳：*明治生命取締役会長、生保協会理事会会長を辞任、

本格政党内閣1918＝69歳：勲四等旭日小綬章。

原敬首相暗殺1921＝72歳：

水平社結成・1922＝73歳：明治火災保険取締役も辞任して、

護憲三派圧勝1924＝75歳：老衰で_没した。

作家水上瀧太郎の父、小泉信三の妻富子の父でもある。

インターネット、